

口腔維持系診療科

歯科顎口腔外科

病棟 東病棟 10F

外来 外来診療棟C 4F 連絡先 022-717-8352 (外来)



科長
高橋 哲 教授

主な対象疾患

- 口唇裂口蓋治療
- 口腔癌治療
- インプラント治療
- 顎関節・口腔顔面痛
- 良性腫瘍
- 外傷
- 抜歯

診療内容

歯科顎口腔外科では、主な疾患別に、口腔癌、顎変形症、顎関節・口腔顔面痛、外傷、口唇口蓋裂、顎骨壊死、インプラント・顎再建の診療グループ体制を編成しており、グループ毎に診療プロトコルを作製し、検査、診断、治療、管理をスムーズに行えるようにしています。また、各グループの疾患動向や最前線の治療法に関する国内外の傾向を調査しつつ、エビデンスに基づいた最新の治療を心がけるとともに、治療実績を収集し、定期的に学会や研究会で報告を行っています。当科の診療トピックとしては下記のもの挙げられます。1)口腔顎顔面領域の形成的手術における咬合を主体とした手術シミュレーション、2)顎変形症治療での三次元的(3D)診断と術後評価、3)新たな骨補填材(リン酸オクタカルシウム)による顎骨欠損領域への骨再生能の応用、4)口腔軟組織欠損への吸収性ポリグルコールシートと自己血フィブリン糊による創部処置、5)慢性口腔顔面痛の発生機序と治療法に対する臨床的研究、6)内視鏡と超音波切削器具を用いた経口アプローチによる低侵襲手術、などです。

なお、3)については、東北大主導で企業との産学連携により、製品化され、臨床応用が可能になりました。

また、歯科インプラントセンターと連携し、腫瘍・外傷などにより生じた咬合不全に対する広範囲顎骨支持型維持装置(保険適用歯科インプラント)を積極的に導入し、咬合再建に関する治療も行っています。

2018年は中央手術室での手術件数が700件を超え、院内でも2、3位を争う手術件数の多い診療科となっております。また、入院患者さん数の内訳としては顎変形症は日本でも有数の症例数を持っており、宮城県内の総合病院歯科口腔外科とも連携しながら三次医療機関としての役割を担っています。

診療体制

口腔外科指導医6名、専門医12名を含めた35名が診療に従事し、外来・病棟を運用しています。

外来では、月～金の午前中は新患を受け付け、さらに終日再来予約診療を行っています。外来での診療内容としては、抜歯、嚢胞などの小手術、顎関節症、粘膜疾患、顎顔面疼痛、インプラント関連手術などがあります。病棟では、腫瘍、顎変形症、嚢胞、唾液腺疾患、外傷、再建などの手術が主であり、歯科麻酔科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、形成外科、救急部、看護部とも協力して運用しています。外傷などの救急対応についても、地域の歯科医院や病院歯科口腔外科とも密接な連携をとって対応しています。

得意分野

口腔外科領域の治療では、顔貌を含めた形態と、摂食・嚥下・発音などの機能に影響を与えることが多く、その治療で失われる形態と機能を最小限にする低侵襲手術や、三次元画像技術を応用したコンピューターシミュレーションによって形態機能を回復することに力を入れています。低侵襲手術では、顔面・顎部に切開を行わない内視鏡を用いた口内アプローチによる手術や、骨欠損部に対する骨造成法では高い骨伝導能を有した人工骨(リン酸オクタカルシウム)の応用による骨採取の回避が挙げられます。また、コンピューターシミュレーションでは顎矯正手術による術後顔貌を考慮した三次元的分析・予測や、顎骨欠損に対する再建術での応用がなされています。特に腫瘍などで失われた顎骨への再建では、歯科インプラントセンターと協力して、最終的な咬み合わせをゴールにおいて理想的な顎骨形態をデザインし、それを元にしたサージカルガイドを使用して良好な結果を得ています。このように先進的な医療機器を利用しながら良好な機能と形態を獲得し、少しでも患者さんの負担を軽減できるように取り組んでいます。

ご紹介いただく際の留意事項